日本民家園だより

特集 合掌造り

vol. 103

企画展「五箇山で暮らす―世界遺産登録30周年特別展―」

2025年10月1日（水）～2026年5月24日（日）

はじめに

富山県南砺市の五箇山地方は旧平村・旧上平村・旧利賀村を合わせた地域で、合掌造り民家での暮らしが行われてきた地域として知られています。日本民家園には五箇山地方から３棟の合掌造り民家が移築されています。今回は五箇山地方をテーマにした特別展に合わせて、合掌造りを紹介します。

合掌造り

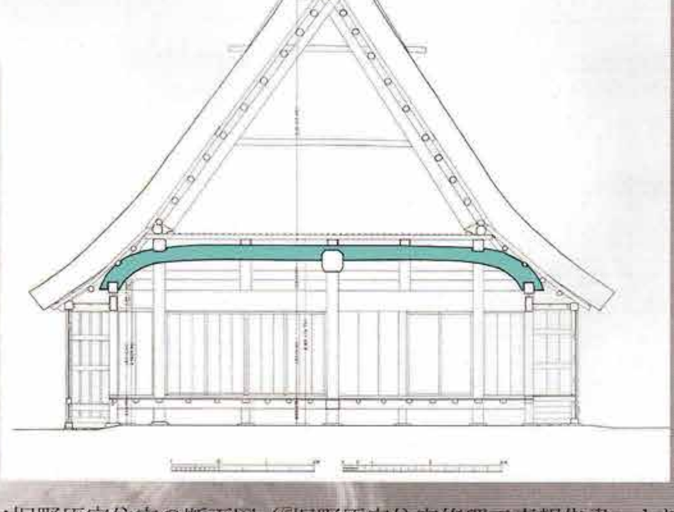
合掌造りは五箇山地方や岐阜県の白川郷で形成された民家の形態であり、神仏を拝むときに左右の手のひらを合わせる合掌のような形からその名がつけられています。江戸時代後期から明治期に入るまでは、戸数を増やしながら安定的に発展してきましたが、戦後の産業構造の変化や急激な経済発展による生活変化・人口流出などが原因で近代的な家屋へと建て替えが進みました。

この変化の状況について現在と約一世紀前のデータと比較してみると、19 世紀には白川郷と五箇山地方合わせて 1800 棟以上の合掌造り家屋がありましたが、平成 6(1994) 年の時点では、集落内に残された合掌造り家屋はわずか 144 棟となりました。特に戦後約 25 年間にその 92 パーセントが消失したという事実は衝撃的です。

合掌造りの材料

屋根を縛る材料には、わら縄だけではなく、マンサクという植物の枝が使われます。「ねそ」と呼ばれ、水につけて柔らかくしたマンサクは一度縛るときつくしまり、ほどけなくなります。

合掌造りが建つ地域をはじめとした雪深い地域では、その土地ならではの材を活用することもあります。「ちょうな梁」と呼ばれる梁は、急斜面に生え、雪の重みで根曲がりした木が使われています。また、園内の山下家には「ちょうな茅」と呼ばれる屋根の装飾が見られます。これらは「釿／手斧（ちょうな）」という民具の形から名前がついています。ちょうなは木材の表面を平らにするための大工道具で、鉋よりも古くから使われています。



左図：旧野原家住宅の断面図（『旧野原家住宅修理工事報告書』より）
（色を付けた部分が「ちょうな梁」）

右上図：旧江向家住宅の屋根に使われているマンサクの「ねそ」

右下図：大工道具の「ちょうな」

合掌造りの葺き替え

屋根の葺き替えは3、4年ごと、1回で葺き替えるのは片側の半分か3分の1程度なので、4回または6回ほどで一巡させましたが、ひとまわりするころには最初の部分は傷み始めていたといいます。当時の葺き替えは、結で行い、一度に葺き替える範囲が屋根の6分の1程度であったので、1日で葺き替えを行いました。現在は、森林組合が2週間ほどかけて半面の葺き替え作業をします。民家園でも五箇山の合掌造りの屋根の葺き替えは現地の森林組合に依頼していて、現地の葺き方が継承されています。

1970年頃 五箇山の合掌造りの葺き替え作業（展示館「勇助」所蔵）

雪囲い

五箇山地方は一晩で1メートルほど雪が降ることもある豪雪地帯です。冬が来る前に家を雪から守り、暖を取るために雪囲いをしました。ここでは、当園でも再現展示を行っている山田家での雪囲いについて紹介します。

毎年秋に屋根にも使うコガヤを刈り取り、11月末か12月、雪の降る前に取り付け作業を行いました。作業としては、まず家の周囲に枠組みを取り付け、そこに茅束をくくり付けていきます。このとき基本的には穂先を上にしますが、窓のところでは下にします。明かりをとるために、根元を上にして窓の下でそろえます。最後に竹竿を取り付け、外側から茅束を押さえます。春になり、雪が降らなくなると雪囲いを外しました。外した茅は「カヤニウ(ニョウ)」にして積み上げ、屋根の葺き替えのために貯めておきました。

現在でも雪囲いは形を変えながら行われています。一般家庭ではトタンやプラスチック製の板で壁の周りを覆っています。また、岐阜県大野郡白川村にある合掌造り民家園では、茅で編まれたオダレを使った雪囲いが行われています。

（北澤 楓花）

日本民家園で再現展示される旧山田家住宅の雪囲い

合掌造り民家園 旧東しな家住宅の雪囲い（2025年12月5日撮影）

追加展示資料の紹介

・イツツグミ、ココノツグミ

祝儀や法要の席で、お酒をまわし飲みする盃。お坊さんや仲人など、その場で一番立場が上の人が一番大きい盃で飲む。12 段のものもあり、一番大きな盃は 1 升の酒を注ぐことができる。

・まゆ

小石丸（上）日本の在来種。宮中でも飼育される。
春嶺鐘月（下）春の気候に適した品種。

・大皿

祝儀に使う九谷焼の大皿。

・カタクチ

お酒を注ぐための入れ物。
朱色は法要、黒色は祝い事で使う

参考文献・ウェブサイト

- 上平村教育委員会 2003『五箇山　結いと屋根葺き』
- 川崎市立日本民家園 2015『20 旧山田家住宅』
- 「白川郷・五箇山の合掌造り集落世界遺産センター」 https://whc-shirakawa-goandgokayama.jp/

日本民家園だより vol.103　発行：令和 8（2026）年 2 月 1 日

川崎市立日本民家園　URL https://www.nihonminkaen.jp/

〒214-0032　川崎市多摩区枡形 7-1-1　TEL 044-922-2181　FAX 044-934-8652

交　通　小田急線「向ヶ丘遊園」駅下車南口より徒歩 13 分

開園時間　［3 月～10 月］9 時 30 分～17 時　［11 月～2 月］9 時 30 分～16 時 30 分（入園は閉園 30 分前まで）

休 園 日　毎週月曜日（祝日の場合は開園）、祝日の翌日（土日・祝日の場合は開園）、年末年始　※臨時休園あり

入 園 料　一般 550 円、高校・大学生 330 円（要証明書）
65 歳以上 330 円（川崎市在住の方無料、要証明書）、中学生以下無料